

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.17

日時	2013年6月2日
行脚先	山崎城
住所	兵庫県宍粟市山崎町 (播磨国)
行事名	

特徴

別名:鹿沢城・山崎陣屋。

中世後期の山崎の地には赤松氏傘下の釜内氏が篠の丸山に築いた篠ノ丸城がありました。

天正8年(1580年)に羽柴秀吉によって攻め落とされ、神子田正治・黒田官兵衛・木下勝俊が城主となりました。

木下勝俊時代の天正15年(1587年)に、篠ノ丸城の南側、鹿沢の地に山崎城(鹿沢城)を築いたとされています。これにも諸説あり、鹿沢には羽柴氏以前より城砦があったとする説もあります。

本格的な城郭が建築されたのは、元和元年(1615年)に池田輝政の子・輝澄が山崎3万8千石で入封した後と言われています。ただし、城は未完成のまま終わり、本丸に代替となる陣屋の設置が許されたのも本多氏が藩主となった延宝7年(1679年)以後のことだったそうです。

池田輝澄が1代で改易された後、松井康映が入るも移封となり、輝澄の甥にあたる池田恒元が入り以後3代続きましたが無嗣断絶しました。その後、本多忠英が1万石で入り、廃藩置県まで本多氏9代の藩主が入りました。

廃藩置県後は跡地に学校施設などが設置されたものの、幕末期の設置とされる表門の紙屋門など一部が本多公園として保存の対象になっています。

黒田官兵衛との関わり

天正8年(1580年)10月、黒田官兵衛は信長から播磨国宍粟郡山崎に1万石と篠ノ丸城を与えられます。

山崎の地を預かった黒田官兵衛は、秀吉の九州平定後、豊前中津に移封となるまで山崎の地を護りました。

黒田官兵衛の次には木下勝俊が篠ノ丸城城主となり、後に山崎城を築城します。

記録

